

子牛初せり

種子島家畜市場

	性別	頭数	1月平均	前対比	前年同期対比
中種子	めす牛	75	579,933	△ 31,757	△ 78,983
	去勢	108	722,500	△ 36,187	△ 32,750
	計	183	664,071	△ 38,504	△ 45,489
市場全体	めす牛	191	596,754	△ 17,622	△ 60,705
	去勢	288	724,844	△ 17,061	△ 25,961
	計	479	673,768	△ 16,034	△ 37,669

※単位：円（税抜き価格、速報値）



種子島子牛せり市が、1月24日、25日に種子島家畜市場であり、平均落札額は67万3千円となりました。

種子島における包括連携協定を締結

出光興産株式会社・東京大学未来ビジョン研究センター



上段右：東京大学未来ビジョン研究センター

下段右：出光興産株式会社

2月1日に、種子島1市2町と出光興産株式会社・東京大学未来ビジョン研究センターの5者において、包括連携協定書を締結しました。

本協定により、エネルギーや交通、福祉、環境など種子島における諸課題の解決に向け、産官学が連携した実証活動を実施し、種子島地域の発展を目指します。

地域おこし協力隊通信 (No. 61)

私の実現したいこと

1月末には、鹿児島県内の優れたICT技術を表彰する「鹿児島ICTeー大賞2021」にて、このosagariアプリは地域活動部門の優秀賞を受賞しています。種子島に根付いていた昔ながらの文化が、アプリという形になって日本全国に評価されていく。こんなに素敵なことって、なかなかありませんよ。

早いもので、地域おこし協力隊になって3年目を迎えます。任期も残り1年となりましたので、これまでの活動を通じて導いた「種子島でこんなことを実現したい！」という思いについて書かせてください。

私は、ひと時の賑わいをつくるのではなく、持続的に町を盛り上げる仕組みづくりを実現したいです。

そう思った背景には、種子島中央高校の生徒と制作した「制服のおさがり文化を残すアプリ「osagari」の取り組みがあります。この取り組みでは、種子島に根付くおさがりの文化を、より多くの人行き渡るようにと、入学生予定者であれば誰でも卒業生から制服などを譲り受けられるようなアプリを作りました。このアプリは多くのメディアに取り上げられ、都内をはじめ全国から「私たちの学校でも取り入れたい」という問い合わせが寄せられました。

さて、そんなアプリを発案した生徒たちも、この3月に進学を機に種子島を離れます。もちろん寂しい思いもありますが、同時に嬉しいニュースもあります。なんと、彼女たちは大学生になってもosagariの運営と取り組みの普及に携わり続けてくれるのです。こうして、高校生の思い付きから生まれたアプリは、「osagari協会」として全国各地に仲間を作りながら広がっていきます。こんなに希望に溢れるニュースはありません。

「湯目由華（ゆのめゆか）」
中種子町地域おこし協力隊員。
岩手県出身。誰かの「やってみよう！」を一緒に実現する人。地域デザイナー／コーディネーター



「osagari」を考案した生徒写真左から 廣濱葵さん、日高千尋さん（南種子町）

このように私は、ひと時の賑わいをつくるのではなく、この町に長く愛されるような、人が変わってもずっとずっと続いていくような。そういう「仕組みづくり」を実現していきたいのです。